

唯一無二の出島を もつと盛り上げる

長崎市出島復元整備室長

馬見塚純治



ストーリーを語れる企画と民間の力をドッキング

昨年十一月、国指定史跡である出島に待望の「出島表門橋」が架かりました。江戸町側から渡ってみると、西洋文化の窓口に足を踏み入れようとする江戸時代さんがみ入れば、高揚感を味わうことができます。大型クレーンで橋桁をつり上げて架橋する際には、市民を呼び入れて出島由来のコーヒーとカステラを楽しみながら見学するというイベントも開催。三期事業を終え、十九世紀初頭の建物十六棟の建物が復元されました。出島は、

近年とみに存在感を増していますが、その現場監督ともいえる長崎市出島復元整備室長の馬見塚純治さんは、長崎大学経済学部の卒業生です。

「あの架橋イベントは大変話題になりましたね。橋を設計した若手設計者チームのアイデアです。これまで出島では市民参加型の試みを重ねていたので、すんなり実現できました」。

確かにここ数年、出島に行けば何か面白いことをやっているというイメージが出来上がりつつあります。

「私が二〇一〇年に出島復元整備室に来た時、出島はまだ第二期復元工事を終えたばかりで行事は少なく展示が中心でした。しかし、

それだけでは先々入場者数の減少が予想されました。そうなれば収益が下がり、その後の復元事業が進めにくくなります。事業を進めるために運営をしっかりとやらなければいけないものの、お金と人手はありません。そこで考えたのが、市民の力で出島を活性化する独立採算制のシステムです。例えば、NPOによるレストラン運営や、

ものづくりマーケット開催などで、少しずつ盛り上がっていました。もつとも、何でもOKというのではなく、出島やオランダに関係するストーリーを語るものにこだわっています。長崎名物の「ちりんちりんあいす」も、出島が伝來の地であるチョコレート味を限定

発売、という具合です」。

実際に入場者数は伸びているのですが、実際に入場者数は伸びているのですか？

「はい、おかげさまで伸びています。特に橋が架かって以降、好調ですね。長崎市全体の観光も、世界遺産や世界三大夜景の一つに選ばれるなどの好材料が続いていることもあって、入場者数は上り調子です」。

大学時代のアルバイトで培われた現場感覚

出島復元整備室は長崎市役所の一部局です。つまり馬見塚さんは市の職員なのですが、その企画力と実行力はビジネスマンのようですね。大学時代はどのような学生だったのでしょうか？

「うーん、正直言つて勉強はあまり熱心ではなかつたですね。一方で、アルバイトは何でもやりましたよ。ごみの収集やダンプの運転、ウエーティング、工事現場で使うコンクリートを発注する作業やらされました。『おい学生、数量を出せ』と言われて必要量を計算します。余つてロスが出れば怒られます。余つてロスが出れば怒られるし、少ないとまたどうやされる。あれは緊張しましたね。おかげで現場感覚が鍛えられました。海外から働きに来ている外国人の通訳のような役回りもありました。そのご縁で、アルバイト代をためて



東南アジアを旅して、あまり日本人が立ち入らないような地域を案内してもらつたこともあります。今と違ひした時代でした。それでも卒業後2年間のブランクを経て難関だった公務員試験に受かったのは、大学で基礎が出来て

いたということでしょう。大学で学んだ世界経済は、今の仕事に非常に役立っています。江戸時代、オランダ人は日本で仕入れた銅を元手に東南アジアで中継ぎ貿易を展開しており、その要が岡島だったわけです。復元が進む岡島にも

観光客から要人まで外国人が来ますから、世界経済の視点から岡島や長崎の役割を説明すると、皆さる理解を深めてくれます」。

英語はそもそも得意だったんですねか？

「ビートルズ世代ですから、英語に対しても憧れが強かったのですが、眞面目に取り組むようになつたのは観光課長になってからです。外国からのクルーズ船が来ると市長の代読で歓迎の挨拶を述べるのですが、最初は棒読みでも、繰り返すうちに度胸がついてきました」。

現在の復元事業の事業コンセプトは「つながる岡島」。対岸と対岸が橋でつながるだけではなく、過去から未来へと時間がつながる、長崎とインドネシア、ヨーロッパなど空間がつながるといった岡島への思いが込められています。かつてオランダ商館が栄えた歴史を持つ都市とのヘリテージネットワークを構築するなど、世界を見据えた展開も始まりました。

長崎の個性の源ともいえる唯一無二の場所、岡島。その可能性は広がりつあり、これからも岡島さんのフル稼働の日々は続きます。

まみつかじゅんじ
福岡県大牟田出身。
長崎大学経済学部卒業後、1986年長崎市役所入庁。教育委員会、財政課、介護保険課、さらく博事務局、さらく観光課長を経て岡島復元整備室長。

無二の場所、岡島。その可能性は広がりつあり、これからも岡島さんのフル稼働の日々は続きます。